

## 佳作

### 挑戦することは 福島県須賀川市立岩瀬中学校 3年 森合 憐

「特殊撮影技術」通称「特撮」。ウルトラマンや仮面ライダー、スーパー戦隊シリーズなどが、この特撮で作られている。私の住んでいる須賀川は、特撮の町と言われている。特撮で有名な円谷監督が住んでいたからだ。私は偶然、特撮塾のイベントで怪獣に出会った。

「中高生が手作りしたなんて、すごい。」  
と感動したのを覚えている。私は絵を描いたり、アニメを観るのが好きで、ものづくりには興味があった。中学2年生になり、早速特撮塾に入塾した。

特撮では映像に特殊効果を施し、実際にはありえない映像を作り出す技術のことだ。ミニチュア撮影や光学合成、爆破、ワイヤーアクションなどを用いて撮影する。

特撮を知っていくうちに私はどんどんひきこまれていった。これが私の挑戦だった。

中学生と高校生が集まって、1本の映画を作る。一人で飛び込んでいった世界。私は知らない人しかいないこの場所で、やっていけるだろうか。初めは緊張していた。しかし、興味が同じ仲間同士が集まると、居心地が良かった。全然怖くなかった。挑戦は誰にでもできるんだ。私でもできた。ドキドキするのは最初だけ。勇気を出して良かったと思った。

私はこの特撮塾で、自分のデザインした怪獣が映画に選ばれた。うれしかった。イベントで出会った怪獣に出会わなければ、私の怪獣は生まれなかつたかもしれない。

映画を作る際に大変だったことはたくさんある。ミニチュア作成は根気がいる。ビルの窓も小さく、数が必要。怪獣は人間が入って動けるようにしなくてはならないため、素材も重要になってくる。現役の美術スタッフさんや怪獣造形などを行っている人、特撮の監督。プロの方々が毎回教えてくださった。さすが、プロの方々はすごい。なんでも作れる。私の怪獣が出来上がった時の喜びは今でも忘れない。

出来上がったミニチュアや怪獣を使い、初めての撮影。手動でセメント粉を出して、埃っぽくしたり、カメラ撮影をやらせてもらったりした。監督が「ようい、ハイ！」  
と言い、助監督役の子がカチンコを鳴らす。

「はいカットー」

撮影は緊張が走る。ピリピリしているわけではない。みんなが一つのことそれぞれに集中しているからだ。いい緊張感の中、汗をかきながら撮影を続けた。

ドラマパートでは、私も登場人物となり撮影をした。初めての体験だった。恥ずかしがり屋の私だが、仲間と一緒に頑張ることができた。パソコンで編集もした。音を入れるのは難しかったが、楽しかった。

こうして、特撮塾の仲間と共に一つの作品を作ることができた。本格的な技術の下、本物に携わることができた。初心者の私たちに、本気で向かい合って指導してくださった特撮塾の講師の方々には、とても感謝している。

私は自分の意見を発信することが苦手だ。一人で、図書館で本を読むのが好きで、アニメや漫画も好き。明るくて元気なキャラとは程遠い。でも、こんな私でも、夢中になれることができた。私を輝かせてくれた、特撮。楽しかっただけではない。私はそのままでいいんだ、と自信をつけることができたのだ。私の挑戦は、無駄ではなかった。

私は、特撮塾に今年度も入塾することにした。あの時の感動が忘れられないからだ。今回も私にできることがあるかもしれない。

そして、また絵コンテなどの制作が始まった。今回も私が考えたものが選ばれた。まだ内容は秘密だ。絵を描くのが好き。考えるのが好き。これを新しい挑戦へ繋げていくのだ。

私は特撮塾で学んだことがある。つらいことも、頑張らないといけないことも、これから先絶対にある。そんな時、楽しかったことを思い出したり、あの時やれたから大丈夫と思えるようになったことだ。

私には夢がある。図書館の司書になることだ。私は特撮で過ごしたあのワクワクを、本を通してたくさんの人たちに伝えたい。子どものように、トキメキとワクワクを。夢があることは、すてきなこと。挑戦することは、すてきなこと。自分を輝かせてくれる、大切なことだから。